

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-900	12-112	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and the risk of incident atrial fibrillation among people with cardiovascular disease. 心血管疾患患者における飲酒と心房細動の発生リスク		
<b>執筆者</b>		
Liang Y, Mente A, Yusuf S, Gao P, Sleight P, Zhu J, Fagard R, Lonn E, Teo KK; ONTARGET and TRANSCEND Investigators.		
<b>掲載誌</b>		
CMAJ. 2012 Nov 6;184(16):E857-66.		
<b>キーワード</b>		
心房細動、飲酒、心血管疾患、糖尿病、高齢者		
<b>要 旨</b>		
<b>背景：</b> 中等量の飲酒は心血管イベントを減少させるが、そのようなリスクが高い集団における心房細動に対する飲酒の効果についてはあまり知られていない。		
<b>目的：</b> 我々は、中等量の飲酒と心血管疾患もしくは糖尿病を有する高齢者における心房細動発生リスクの関連性について調べた。		
<b>方法：</b> 我々は、2つの大きな降圧薬治療トライアルに参加し、ベースラインで心房細動のない30,433名のデータを解析した。患者は55歳以上で、心血管疾患もしくは臓器障害を伴う糖尿病の既往があった。様々な国で使用されているガイドラインに基づいて中央カットオフ値により飲酒レベルをlow少量、moderate中等量、high多量に分けた。また、一日5回以上の飲酒を大量飲酒と定義した。一次アウトカムを心房細動の発生とした。		
<b>結果：</b> あわせて2,093名で心房細動を生じた。1,000人年あたり年齢・性別を標準化した発生率はlowレベル飲酒の患者で14.5人、moderateレベルの患者で17.3人、highレベルの患者で20.8人であった。Lowレベル飲酒量の参加者と比較して、それよりも多い飲酒量の参加者で心房細動の発生リスクが増加した (moderateレベルで調整ハザード比1.14、95%信頼区間1.04~1.26、highレベルで調整ハザード比1.32、95%信頼区間1.07~1.80)。大量飲酒者を除いても結果は同様であった。中等量飲酒の参加者において、大量飲酒者では非大量飲酒者と比較して心房細動発生のリスク増加を認めた (調整ハザード比1.29、95%信頼区間1.02~1.62)。		
<b>結論：</b> 中等量から多量の飲酒は、55歳以上の心血管疾患あるいは糖尿病ある集団における心房細動の発生の増加に関連していた。中等量飲酒者において、心房細動発生リスクに関する大量飲酒の影響は習慣的な多量飲酒の影響と同様であった。		